

令和 6 年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画										
学校運営方針		・ 真理を追究し、誠実にして正義に燃え、強固な意志と実行力を有する人格を培う。 ・ 健全にして明朗、常に勤労と責任を重んじ、自主独立の精神を養う。								
三つの方針（スクール・ポリシー）										
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）		①全教科にわたる確かな学力と、学習や諸活動に粘り強く取り組むたくましい心身を育成します。 ②高い倫理観をもち、誠実にして自律した行動をとる態度と心を育成します。 ③多様な価値観を認めて他者と協力して取り組み、新しい価値を生み出す創造力を育成します。 ④郷土を愛し、地域社会に貢献しようとする心を育成します。								
教育課程の編成及び実施に係る方針 （カリキュラム・ポリシー）		①大学進学をはじめとした多様な進路希望に対応する教育活動を実施します。 ② I C T を有効に活用し、確かな学力の定着を図るとともに、他者と交流する教育活動を展開します。 ③たくましい心身の育成に重点を置いた部活動に取り組みます。 ④「医療専攻」を核として、地域と連携した総合的に探究的な時間を展開します。								
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）		①謙虚に学ぶ姿勢をもち、確かな学力を身に付けようと努力する生徒 ②自分の可能性を信じて部活動や特別活動に積極的に取り組む生徒 ③地域社会に興味・関心があり、将来、地域に貢献する意欲がある生徒 ④基本的な生活習慣を身に付け、ルールやマナーを守る生徒								
昨年度の成果と課題		令和 6 年度の重点目標				具体的目標				
・ 地域の団体や企業と連携してキャリア教育を実施することができた。本校の探究活動として定着している。 ・ 進学・就職ともに生徒が希望する進路を実現することができた。今後も進路意識の早期の啓発を目指し、行事等を実施する。 ・ 学ぶ意欲を高めるために、分かりやすい指導方法を工夫するとともに、I C T を活用した効果的な授業を一層推進する。 ・ 日頃から生徒に関する情報の共有を行うとともに、スクールカウンセラーや専門機関、家庭との連携を強化し、組織的な生徒指導体制の更なる充実を図る。 ・ 勤務時間管理についての意識が高まった。		①郷土を愛する心と、豊かな感受性を持ち、責任感、正義感のある生徒を育成する。				・ 個性の伸長と自主性の育成 ・ 規範意識と公共心の涵養 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 地域の医療機関との連携 ・ 成果の発表と情報の公開				
		②学ぶ意欲を育み、進路実現ができる確かな学力の定着を図る。				・ 早期からの進路意識の醸成 ・ 学習習慣の定着 ・ 基礎学力の定着 ・ 生徒に分かりやすい指導方法の研究・工夫 ・ I C T を活用した授業の推進				
		③部活動や特別活動を通して、健康な心身を育てる。				・ 学習と部活動の両立 ・ 学校行事の充実				
		④教職員が業務内容の精選等を行い、勤務時間の削減に向けて意識改革が進むよう働き方改革に係る校内での取組を推進する。				・ 学校閉庁日、定時退校日の設定 ・ 週休日の登庁簿の活用 ・ タイムカードシステムを使用した勤務時間の管理 ・ 部活動の休養日の設定				
重点目標		具体的目標		具体的方策				評価		
①	国語	基礎学力の定着と向上		常用漢字の習得を徹底し、語彙力の向上を図る。				A	A	
				基礎学力の定着へ向けた授業の工夫を行う。				A		
				I C T を効果的に活用した授業を考える。				A		
	地公	基礎学力の定着		幅広い学力の生徒に対応するために、基礎学力の定着と進学に必要な受験科目に対応した教科指導を実践する。				B	B	
				授業と補習を通して自宅学習の習慣化を粘り強く指導する。				B		
	数学	自習時間の解消	授業振替や代講授業を徹底する。				A	A		
		基礎学力の定着	幅広い学力の生徒に対応するために、基礎学力の定着と進学に必要な科目に対応した教科指導を実践する。また、放課後や夏休み補習を通して進学に必要な学力を身につけさせる。				B			
	理科	主体性の向上		演示・生徒実験の実施、電子黒板やタブレットの有効な活用などを通して理科に対する興味関心を高め、生徒の主体性を向上させる。				A	A	
		基礎学力の定着と向上		授業内容の復習や小テストなどを通してアウトプットする時間を設け、基礎学力の定着と向上を図る。				A		
	③	外国語	英語 4 技能の向上		G T E C 受験を通して、英語 4 技能の向上を図る。				A	A
			基礎学力の定着		英単語等の小テストを通じて、家庭学習の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。				A	
③	保健	自己の状況に応じた体力の向上を図る能力の育成		体力テストにおいて、全国、県平均値を上回るよう、補強運動や十分な運動量を確保し、基礎体力の向上を図る。				A	A	

	体育	公正、協力、責任、参画への意欲を高める	集団行動やグループ学習を通して、公正、仲間との協力、責任感、積極的に取り組む力を身につける。	A	
	芸術	芸術・文化的活動の推進と内容の充実	創作、表現、鑑賞をとおして、生涯にわたって芸術を愛好する心を育成する。		A
	家庭	生活に関する基礎的な知識と技術を習得する	10分の5以上を実験・実習に配当し、実践的・体験的な学習を通して習得させる。	A	A
		男女が協力して生活を創造する力を育てる	実践的、体験的学習を取り入れ、男女が協力して生活を創造していける能力と態度を養う。	A	
①	一学年	基本的な生活習慣を身に付けさせる	時間を守ることの大切さを指導し、今できる最善な生活パターンを作ることで、よりよい生活習慣を身に付けさせる。	A	A
			目的意識を持った生活を送るよう指導する。	A	
			挨拶を励行し、社会人としてのマナー・モラルを育成するよう指導する。	A	
②		学習習慣の定着	学習課題、その他諸提出物の確実な提出を促し、学習習慣の定着を図る。	B	B
			教科と連携し、必要な家庭学習時間を確保させる。	B	
③	二学年	自分の進路を具体化する	自分の将来について具体的な目標を立てさせる。	A	A
			語彙力・読解力を向上し、社会課題への理解を深める学習を行う。	A	
			的確に読み取る読解力、表現するための語彙力を向上し、社会課題への理解を深める学習を行う。	B	
		家庭学習の定着	教科と連携し、家庭学習時間を確保させるように指導する。	B	
		基本的な生活習慣を身に付けさせる	挨拶がしっかりできる、遅刻をしない、時間を守るなどの基本的な生活習慣を身に着けさせる。	A	
	三学年	規範意識の涵養	「成人」となる自覚を持たせ、正しい身だしなみや言動をとれるよう指導する。	A	A
			正しい情報モラルを身に付けるよう指導する。	A	
		進路実現へ向けての学力向上	進路実現に向けた学習習慣の定着、家庭学習時間の向上をうながす。	B	A
			進路実現に向けての意識を向上させ、早めの取り組みをうながす。	A	
①	教務	基礎学力の向上と充実	学びの質を高める授業改善に取り組む。	A	B
			学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。	B	
②		特別活動の確保と精選	特別活動の意義を踏まえ、年間行事計画の中にホームルーム活動・生徒会活動・学校行事をバランスよく確保する。	A	A
		学校公開の推進と研修の充実	対外的な公開授業及び校内的な授業公開を実施し、中学校との連携を持ちつつ、指導方法の研究・改善に努める。	B	
		読書習慣の向上と環境の充実	生徒や教科等のための図書を充実させ、図書館の環境整備を図るとともに読書習慣や利用の啓発を推進する。	A	A
		情報機器の活用	ICTの活用をさらに進める。	A	
①	進路指導	進路実現にむけての対策の実施	希望する進路の試験に対応できるように、学びの基礎診断を通して基礎学力を向上させる。	A	A
			入試・入社試験で行われる面接・作文・小論文等の指導体制を整え、充実した指導を行う。	A	
③		進路意識の向上	進路ガイダンス・講演会・模試等を通して、進路意識を向上させる。	A	A
			オープンキャンパスや職場体験等へ積極的に参加させ、自らの経験を基に進路について考えられる生徒を育成する。	A	
		基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会規範を遵守する態度を養わせる。	B	B
			服装・頭髪指導を実施し、常に面接試験ができる身なりを意識させる。	B	
		交通安全の徹底	・交通ルールを遵守させ、事故・違反を減らす。 ・自転車用ヘルメットの着用を推奨する。	A	A
		安全・安心な教育環境の維持	・生徒の情報交換を絶えず行い、その効果的な指導方法を検討し、全校上げて見守りを実施する。 ・週1回の運営委員会・いじめ対策委員会で情報交換し、生徒の変化を見逃さない校内体制を構築するとともに、問題の抱え込みをなくす。 いじめに気づける学校づくりを推進するため、定期的にアンケートを実施するとともに個別面談を強化して実態把握に努め、基本法方針に則って未然防止対策を推進する。 多くの教職員が研修会に積極的に参加し、情報共有する。	A	
③	保健指導	自主的な健康管理の育成	健康講話や保健指導、健康相談等で心身の健康への意識向上を図る。	A	A
		学習環境の清潔さの保持と公共心の育成	健康診断等を通じ自主的に心身の健康管理のできる生徒を育成する。	A	
		学校行事の活性化	清掃をとおして他者を思いやる心、物品を大切に扱う心を育成する。	A	A
			月一回の大清掃を実施し、校舎の美化に努める。	A	
生			生徒が主体となり、積極的に生徒会行事運営・いじめ防止活動を検討・	B	A

	徒 会 指 導		実施する。			
		部活動の活性化	継続的に活動を行えるよう環境等を整備する。	A		
地域・ 家庭と 連携		P T A行事の開催	各種委員会や総会に際し、P T A会員への案内を徹底し、出席率の向上を目指す。	A		
「医療 専攻」 の充実		課題解決能力の育成	病院見学や病院実習などを通して、課題を立て、主体的・協働的に整理・分析し、発表することができるよう指導する。	A	A	
		地域の医療機関との連携	地域の医療機関と連携し、魚沼地区の医療について深く学び、将来、地元に貢献する医療従事者になるための態度を育成する。	A		
		成果の発表と情報の公開	「医療専攻」たよりの発行、ホームページへの掲載、医療専攻発表会の開催により学習の成果を公開する。	A		
④		働き方改革に係る 校内の取組	学校閉庁日と定時退庁日を年間計画に設定をし、その遵守を促す。	A	A	
	部活動の活動方針に従い、各部活動の休養日を年間100日以上とする。		A			
	タイムカードシステムや週休日の登庁簿を適切に運用する。		A			
成 果			・学習用タブレット端末等 I C Tやオンライン学習支援サービスを積極的に活用し、分かる授業や主体的な学びの実現に努めた。 ・きめ細やかな進路指導で、進学・就職ともに生徒の進路実現を達成することができた。 ・日頃から生徒についての情報共有を行い、きめ細やかな支援・指導を行った。	総合評価 A		